

活動タイトル	少年院における「高等学校卒業程度認定試験」受験支援事業	団体名	NPO法人キズキ	
<p>1年間の活動（アウトプット）の目標（事業全体）</p>	<p>(1) 1回5時間程度の学習支援を年20回程度、2週間に1回のペースで実施する。弊団体での支援経験が豊富な講師を上記「茨城農芸学院」に派遣し、基礎学力の向上や学習方法の指導、高卒認定試験の受験指導を実施する。</p> <p>(2) 少年院における社会復帰支援について関係者へのヒアリング等のリサーチを行う。どのような支援が必要とされているのか、特に有効なのかといった点を調べ、より効果的な支援を行うための材料とする。</p> <p>(3) 半年に1回程度、少年院担当者や他の支援機関とのディスカッションを行う。これまでの支援の成果や課題を検討し、支援の改善につなげる。また、支援の概要と成果については少年院担当者との協議のうえ、差し支えないようであればパンフレット形式で発表する。</p>		<p>■ 活動風景</p>	
<p>■ 活動報告</p>		<p>■ 1年間の目標に対する達成状況</p>		
<p>昨年度は少年院に講師を派遣するにどまっていたが、今年度は講師を派遣しつつ、広報イベントやロビーイングを行い、自治体の政策にまで落とし込むことができた。具体的にを行った活動は、下記のとおり</p> <p>・ 少年院内での学習支援</p> <p>2018年9月から2019年8月にかけて、少年院内での学習支援を合計15回行った。その結果、2018年度は8月試験において、受講者1名が3科目、もう1名が4科目に合格した。</p> <p>11月試験では、受講者1名が3科目に合格。</p> <p>なお、2019年試験結果については、現在、確認中。</p> <p>・ 学習支援に伴う会議・打ち合わせ、他の少年院の見学</p> <p>学習支援を円滑に行うため、少年院内の法務教官と複数回打ち合わせを行った。茨城農芸学院以外の少年院の事例を参考にするため、他の少年院の見学・訪問を行った。</p> <p>・ 教材作成</p> <p>少年院支援を広げていくために必要な教材を作成した。</p> <p>- 少年院の学習支援報告イベント</p> <p>2019年2月、法務省の関係者等に向けて、少年院の学習支援に関するイベントを行った。その成果として、弊団体がやってきた試みが注目を集め、「法務省のモデル事業にしていきたい」というオファーをいただいた。</p> <p>・ モデル事業に向けた打ち合わせ</p> <p>2019年春からは複数回、法務省関係者と打ち合わせを行った。</p>		<p>左記のとおり、学習支援を行い、教材を作成、広報イベントを行い、法務省や少年院にヒアリングを行うことで、法務省のモデル事業化まで達成できた。</p> <p>本事業開始時、一年間の目標として下記3点を目標としていた。</p> <p>1：学習支援を行うこと</p> <p>2：少年院関係のリサーチを行うこと。</p> <p>3：少年院の関係者とディスカッションを行い支援を改善すること。差し支えなければパンフレットとして発表すること。</p> <p>上記のうち、予定していた少年院事業のパンフレット制作は、行うことができなかったという反省がある。具体的には、少年院は情報の取り扱いが非常にセンシティブであり、そのような広報媒体を作成するには関係各所との調整が必要であるが、その点を申請書作成時点で理解していなかった。</p> <p>一方、本事業開始時、「高卒認定試験の受験に向けた学習支援が、社会復帰支援施策の一環として国に採用され、全国の少年院において実施されること」を中長期的な目標として記載した。</p> <p>その点については、弊団体の予想を上回るスピードで物事が進んだ。それは、8月から法務省のモデル事業として採用されたということである。法務省のモデル事業として国の事業となったため、モデル事業として成果が示されれば、広く全国の少年院での施策として採用される可能性がある。</p>		
<p>■ 1年間の活動のまとめ</p>		<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>	<p>■ 実施した人材育成策</p>	<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>● 活動報告に記載したように、「パンフレットの作成」以外については、目標どおりの事業を行うことができた。また、国のモデル事業となったことで、NPO法人としての少年院への講師派遣の回数は減少したが、国の予算がついたため、少年院支援は拡充されたと言える。</p> <p>● 1年間の目標を達成するだけでなく、中長期の目標である「高卒認定試験の受験に向けた学習支援が、社会復帰支援施策の一環として国に採用され、全国の少年院において実施されること」に向けて活動を行うこともできた。少年院支援に関するイベントを行い成果を発表し、様々な関係者とディスカッションを行うことで、国もモデル事業化まで達成できた。</p>		<p>社会課題に対して小さく解決モデルを示し、それを広報・ロビーイングすることで、政策化・予算化するというのが、最も得られたノウハウである。</p> <p>事業開始当初は、中長期目標として記載したことをどのように実現するか頭を悩ませていた。しかし事業として成果を出し、その意義を関係者に広く周知することで、国のモデル事業となり中長期の目標達成にかなり近づくことができた。</p> <p>困難を抱えた個人に対して団体として個別にアプローチしているだけでは、社会全体の課題はいつまで経っても解決はしない。むしろ個別のアプローチを国や自治体の政策にすることで、社会課題を広く解決していくことの必要性・実現可能性を学んだ。</p>	<p>派遣する講師に対して、本事業を通じて作成した資料を用いて、研修を行った。</p>	<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>少年院支援とその広報、自治体の政策化</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の変化（効果測定結果等）</p> <p>・ 実際の少年院の若者たちの高卒認定試験合格</p> <p>・ 法務省のモデル事業化</p>



少年院に講師を派遣。少年たちの高卒認定試験の合格に貢献

茨城農芸学院にて、少年院に入院中の若者たちの高卒認定試験合格に向けた指導を行った。



埼玉にて、少年院での学習支援に関するイベントを行った

法務省関係者らと共に、少年院の学習支援に関するイベントを行った。このイベントを機に少年院支援の重要性が法務省内で認知され、この夏モデル事業となった。